

開催日時: 令和5年9月13日(水) 13:30~15:30
 開催場所: 岩手河川国道事務所 2階大会議室

氏名	所属・役職等
ウンノ シン 海野 伸	盛岡まち並塾 理事長(会長)
キンノ マリ 金野 万里	NPO法人 いわて景観まちづくりセンター 理事
(新アドホック) キタダ キミコ 北田 公子	トラベルリンク株式会社 代表取締役副社長
グンジ トシミチ 軍司 俊道	NPO法人 北上川流域連携交流会 理事長
コガリマイ ジュンイチ 小刈米 淳一	中津川勿忘草を育てる会 副会長
コシド クニオ 越戸 國雄	中津川勿忘草を育てる会 会長
シバタ ツグヤ 柴田 継家	中津川勿忘草を育てる会 会員
テライ ヨシオ 寺井 良夫	NPO法人 もりおか中津川の会 理事
マツモト ノリオ 松本 範雄	下米内町内会 会長
ヤスハラ ショウケ 安原 昌佑	中津川の水芭蕉を守る会 会長
(オブザーバー) コムロ ユウト 小室 祐人	岩手大学大学院総合科学研究科地域創生専攻 学生

第17回盛岡地区かわまち勉強会(中津川グループ)

日時: 令和5年9月13日(水) 13:30~15:30

場所: 岩手河川国道事務所2階大会議室

— 次 第 —

- 1.開会・あいさつ
- 2.自己紹介
- 3.勉強会の位置付けと前回までの振り返り
- 4.今年度の活動状況や情報交換
- 5.事務局から情報提供
 - 1)令和4年度かわまち大賞受賞の報告
 - 2)河川区域のオープン化について
 - 3)今後の勉強会開催方法について
- 6.意見交換
 - テーマ1)かわまち勉強会のグループ統合について
 - テーマ2)中津川の活性化について
- 7.閉会



①参加団体の今年度の活動状況報告等(中津川G)

参加団体	活動状況等
盛岡まち並み塾(海野氏)	<ul style="list-style-type: none"> ■ニューヨークタイムス(NYT)の影響もあってか、最近では外国人観光客が多い印象である。
NPO法人いわて景観まちづくりセンター(金野氏)	<ul style="list-style-type: none"> ■盛岡の景観がNYTで取り上げられた。 ■今月9月26日のNHK「クローズアップ現代」で盛岡の景観についても放送される。
NPO法人北上川流域連携交流会(軍司氏)	<ul style="list-style-type: none"> ■大正や昭和の歌の中に盛岡の良さが謳われている。 ■御所湖公園の花づくりも行っており、コスモスの時期がこれからやってくる。
中津川勿忘草を育てる会(小苺米氏)	<ul style="list-style-type: none"> ■中津川では、「雑草が多い(学校回り・河川に木が成長)」を感じる。 ■環境整備が優先で草取りから始めていくべきだ。
NPO法人もりおか中津川の会(寺井氏)	<ul style="list-style-type: none"> ■中津川の会の活動は、ほぼ休止中である。 ■現在はSAVE IWATE理事長をしており、河川協力団体である。
下米内町会(松本氏)	<ul style="list-style-type: none"> ■ヤマメの稚魚の放流会を実施した。 ■綱取ダムのサケの稚魚放流会を実施した。
中津川の水芭蕉を守る会(安原氏)	<ul style="list-style-type: none"> ■コロナ禍で3年活動できなかった。 ■5年を経て水芭蕉の群落が小さくなってきていた。 ■会員が少なく高齢化したので範囲を狭めて活動する予定である。
トラベルリンク株式会社(北田氏)	<ul style="list-style-type: none"> ■盛岡着地型の旅行で普段は街歩きのガイドをしているが、移住予定の方や縁結びのツアーなどの案内もしている。
岩手大学大学院生(小室氏)	<ul style="list-style-type: none"> ■舟っこの会の舟運などを対象に研究をしている。
盛岡市観光課	<ul style="list-style-type: none"> ■観光課が実施を把握している中津川での行事等としては、チャグチャグ馬っこの再開、サケ稚魚の放流事業、アユ釣り教室開催などがある。

議題	主な意見	対応方針(案)
①かわまち勉強会のグループ統合について		
<ul style="list-style-type: none"> ■2つのグループに分けたままでよい 	<ul style="list-style-type: none"> ■中津川と北上川では背景・情緒・文化的なものが全く違う。 ■北上川と中津川とでは石の形ひとつとっても危険度が違う。 ■中津川に特化した話し合いのほうがわかりやすい。 ■中津川独自の課題を解決していくのがこの会のあり方だと思うので、議論は中津川に特化したほうがいい。 ■河川空間のオープン化を各河川で本気になって目指すなら、議論を深めるためには分けないとかみ合わない。 	<ul style="list-style-type: none"> ■かわまちづくりのハード整備が終了し、現在のかわまち勉強会は各団体の情報共有の場であると位置づけられることから、次回勉強会は従前の全体会に戻すこととする。そのうえで、必要性があればグループごとの開催も検討する。
<ul style="list-style-type: none"> ■情報共有・情報発信の場として統合した全体会があって、必要に応じて各グループ毎の部会を開催する 	<ul style="list-style-type: none"> ■元々、勉強会の発端は情報交換・情報提供の場。河川を利用して色々な団体でまちづくりに繋げていこうとしたものだったと思う。 ■勉強会の構成団体は、それぞれがその団体の目的をもってやればいい。 ■市民から情報が見えにくいので、例えば年度初めに全体で情報を交換し、市民にお知らせすることも必要だ。 ■勉強会は、いくつかの団体が同一課題をお互いに解決していく場ではないか。 ■観光業に携わる身としては、観光情報発信の部分では中津川も北上川も一緒に発信したほうが良いのではないかと思う。 ■情報共有の場は設けて、中身は実質的に北上川の部、中津川の部の2つにして、興味のある人がどちらも行き来できるようにすればいいのではないか。 ■2つの河川を見る視点が異なるのは当然であり、共通項もあるから必要に応じて合流すればいい。 	<ul style="list-style-type: none"> ■メンバー構成は、次回からは同じ所属団体からは最大2名までとし、新規メンバーについては勉強会にも諮りながら検討する。

(つづく)

(つづき)

議題	主な意見	対応方針(案)
②中津川の活性化について		
<p>■河川敷の雑草除去の方法</p>	<p>■草刈りについては、地区ごとにエリア担当を決めて、管理が良いエリアは表彰などをすれば、もう少しきれいになる。 ■河川に市民が来るためには高い頻度の草刈りをする仕組みが必要だが、市民の力だけでは難しく、かといって行政だけでも限界である。そこで、“オープン化”して地域の商業者を巻き込む必要がある。オープン化を最大限活用していくことが必要だ。</p>	<p>■現状の報告として、国で行う除草は基本的には堤防の除草であり年2回おこなっている。高水敷は市民の要望も強いことから昔から除草している状況である。 ■河川協力団体等による除草委託などの検討も行う。</p>
<p>■河川敷の木の伐採の方法</p>	<p>■河川敷の木は、省力化のためにも小さいうちに刈ったほうがいい。</p>	
<p>■盛岡の良さや市民活動の情報発信</p>	<p>■かわまちづくりについて研究しているが、今ある資源だけでも十分面白いので、“かわ”を通して盛岡の良さを外に発信すべきだ。 ■中津川は盛岡の市民活動の発祥の地であるが、活動団体の年間活動が公表されていないので、多くの人に参加できるように、草刈りや水芭蕉の手入れの日などを広報するとい</p>	<p>■勉強会の議論した内容は、かわまちづくり懇談会で報告され、その内容については公開している。</p>
<p>■河川空間のオープン化</p>	<p>■オープン化事例集を見ても、中津川で具体的にどうすればいいかわからないので、どんな商売の方に声かけするかなど参考事例があるとよい。</p>	<p>■事例集でも出店者はケースバイケースなので、事務局側にもまとまった資料は無い。</p>

開催日時: 令和5年9月27日(火) 10:00~12:00
 開催場所: 岩手河川国道事務所 2階大会議室

氏名	所属・役職等
アサヌマ マサト 浅沼 雅人	北上川に舟っこを運航する盛岡の会 委員
アベ マサル 阿部 優	北上川に舟っこを運航する盛岡の会 事務局
イノハラ ユウキ 猪原 勇輝	ゼロイチキョウ合同会社 代表
ウチダ ナオヒロ 内田 尚宏	(一社) いわて流域ネットワーク 代表
オオツボ シズオ 大坪 靖夫	神子田町内会 会長
オヤマ タカハル 小山 隆春	盛岡まち並み塾 理事 北上川に舟っこを運航する盛岡の会 委員
キンノ マリ 金野 万里	NPOいわて景観まちづくりセンター 理事
(新アドホック) キタダ キミコ 北田 公子	トラベルリンク株式会社 代表取締役副社長
グンジ トシミチ 軍司 俊道	NPO北上川流域連携交流会 理事長
テライ ヨシオ 寺井 良夫	NPOもりおか中津川の会 理事
ミヤザワ ショウジ 宮澤 俊次	盛岡駅前東口振興会 会長 北上川に舟っこを運航する盛岡の会 理事
ヤスハラ ショウスケ 安原 昌佑	中津川の水芭蕉を守る会 会長
(オブザーバー) コムロ ユウト 小室 祐人	岩手大学大学院総合科学研究科地域創生専攻 学生

第18回盛岡地区かわまち勉強会(北上川グループ)

日時: 令和5年9月27日(水) 10:00~12:00

場所: 岩手河川国道事務所 2階大会議室

一 次 第 一

1. 開会・あいさつ
2. 自己紹介
3. 勉強会の位置付けと前回までの振り返り
4. 今年度の活動状況や情報交換
5. 事務局から情報提供
 - 1) 令和4年度かわまち大賞受賞の報告
 - 2) 河川空間のオープン化について
6. 意見交換
 - テーマ1) かわまち勉強会のグループ統合について
 - テーマ2) 北上川の河川空間の賑わい創出について
7. 閉会



②参加団体の今年度の活動状況報告等(北上川G)

参加団体	活動状況等
北上川に舟っこを運航する盛岡の会(阿部氏)	<ul style="list-style-type: none"> ■5/13に川開きを、6/17には北上川フェスタを実施し、フェスタではもりおか丸に70名程度が乗船した。 ■新山河岸とバスセンターを結ぶバスを運行しておよそ300名が乗車した。 ■材木町の石垣で渡し船を実施(100名)した。 ■通常は10名の乗船×7回程度 ■開明丸の知名度がやや低い、これからもまちづくりに関わりたい。
ゼロイチキュウ合同会社(猪原氏)	<ul style="list-style-type: none"> ■木伏は開業からすぐにコロナ禍に入ったが、今年の5月以降にマスク解禁となり、一般市民の方から依頼で4回ほどイベントを開催した。 ■イベント以外では、宿泊施設を欲しいと感じており、駅前の空き物件でゲストハウスを行いたいと考えている。
いわて流域ネットワーキング(内田氏)	<ul style="list-style-type: none"> ■中津川と北上川の川の学習をしており、500名程度(30学校)を受け入れている。テーマとしては、川と海のつながりについて話すことが多くなっている。 ■胆沢ダムの流量が多く、ラフティングを5年ほどまえから行っている。 ■ラフティングに加えてSUPの講習をしているが、北上川でも十分にできる。 ■需要はあるがスタッフの体制から受け入れ限界がある。 ■急流を利用して救命講習なども行っている。
神子田町内会(大坪氏)	<ul style="list-style-type: none"> ■神子田町は、朝市で名をはせている。隣の鉾屋町に隣接しているから呼ばれたと思っている。
いわて景観まちづくりセンター(金野氏)	<ul style="list-style-type: none"> ■「まち・もりおか(タウン誌)」の11月号に「北上川とダム」というテーマで座談会を開催しその内容を掲載した。
北上川流域連携交流会(軍司氏)	<ul style="list-style-type: none"> ■岩手町から石巻市までの団体との情報交換を行っている。コロナ禍以降、活動が停滞している。
NPO法人もりおか中津川の会(寺井氏)	<ul style="list-style-type: none"> ■中津川の会の活動は、ほぼ休止中である。 ■現在はSAVE IWATE理事長をしており、河川協力団体である。
トラベルリンク株式会社(北田氏)	<ul style="list-style-type: none"> ■盛岡着地型の旅行で普段は街歩きのガイドをしているがあ、移住予定の方や縁結びのツアーなどの案内もしている。
岩手大学大学院生(小室氏)	<ul style="list-style-type: none"> ■舟っこの会の舟運などを対象に研究をしている。
盛岡市公園みどり課	<ul style="list-style-type: none"> ■7/23にゴムボート下り大会があり、昨年より20艇多い431艇の参加があり、410艇がゴールした。

議題	主な意見	対応方針(案)
①かわまち勉強会のグループ統合について		
<ul style="list-style-type: none"> ■統合したほうが良い 	<ul style="list-style-type: none"> ■統合について賛成であり、水のつながりで地域を活性化していこうという組織だから、分けることに違和感がある。 ■背景や文化が違うというが違っていいではないか。 ■川として捉えるのであれば一緒でもいい。 ■川はつながっているし、事柄もつながるし、色々な意見がでるから統合したほうがいいと思う。単純に中津川のことを知りたいということもある。 ■つながることのメリットをグループに分けることで潰すのは惜しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ■かわまちづくりのハード整備が終了し、現在のかわまち勉強会は各団体の情報共有の場であると位置づけられることから、次回勉強会は従前の全体会に戻すこととする。そのうえで、必要性があればグループごとの開催も検討する。
<ul style="list-style-type: none"> ■全体会もあって必要に応じて部会もあるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> ■全体的な意見交換の場があってもいいが、個別テーマが出てくると分断してしまう懸念もあるため、河川毎の部会を設ければいい。 ■数年前は、北上川と中津川で意見が割れて組織を分けたが、川が好きなことは変わらないから一緒でもいい。次回は、合同でやろう。 ■新たに盛岡に来た人を入れるべきではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ■メンバー構成は、次回からは同じ所属団体からは最大2名までとし、新規メンバーについては勉強会にも諮りながら検討する。
<ul style="list-style-type: none"> ■勉強会への新たなメンバー候補 	<ul style="list-style-type: none"> ■環境の変化などのわかる有識者(野鳥の専門家など)がいてもいいのではないか。 ■以前コンベンション協会からも参加があったので、観光の売り手も参加して欲しい。 ■フレッシュな意見を言える立場として、外から盛岡に来た人を入れてもよいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ■自然環境の専門家は、かわまちづくり懇談会などに参加しており、かわまち勉強会はそうした専門家を交えた会議とはしていない。

(つづく)

(つづき)

議題	主な意見	対応方針(案)
②北上川の河川空間の賑わい創出について		
<p>■都市・地域再生等利用区域の指定範囲</p>	<p>■提案の指定範囲は舟運をイメージした区間だと思うが、上流から来た舟がもりおか港で下船することを考えると、もりおか港の上流、特に四十四田ダムなどの自由度も高めて魅力を高めたい。</p> <p>■舟運の航路だけでなく、神社の祭りや渡し舟でも、夕顔瀬橋と旭橋の間を利用しているので、その区間も入れてほしい。</p> <p>■旭橋～開運橋までの区域指定を進めたいのが当初からの目標で、区域指定したいスタンスは木伏開業当時から変わらない。キャンプやBBQの問い合わせが多くなってきているので、できれば来年の温かくなる時期には指定を目指していただきたい。</p>	<p>■盛岡市で区域指定について検討中</p>
<p>■舟運事業の懸念事項</p>	<p>■ダム放流による水量確保なども国の協力があるが、オープン化しても、それが継続的にできるか心配である。</p> <p>■舟運は予算的なこともあり全員ボランティアでやっていて、年齢的にも大変で、オープン化したからといって事業採算が取れる状態になるのはまだまだ先と思っている。</p>	<p>■オープン化しても、従来どおりの活動が出来る。</p>
<p>■区域内の除草</p>	<p>■現状として年2回河川管理者が除草しているが、利用に際して必要な除草などの維持管理は、利用団体が自前でやるしかなくなる。</p> <p>■民間利用団体としては、除草する人はどうにかなるが、機械の提供が欲しい。</p> <p>■肩掛け式機械があっても、除草するには対象範囲が広すぎて使えない。ホームセンターで売っている程度の自走式除草機械でも時間がかかる。</p> <p>■高い頻度で除草と集草を行えば、人が川辺に集ってくることが分かった。</p> <p>■除草頻度を高くすると、草の種類が背丈の低いものに変化することが分かったが、頻度的にも面積的にも肩掛け式草刈機だと限界があるので、自走式草刈機を市側で用意してもらいたい。</p> <p>■国が実施する年2回の草刈りについて、場所を狭めるなどして全域除草ではなく、人が使うエリアに集中して除草する事はできるか。</p>	<p>■市には除草機械のレンタル制度は、現存在ない。自走式や肩掛け式草刈機を貸与できる制度の検討を進める。</p> <p>■国の除草は堤防を年2回実施。ある箇所を集中して除草すれば、他の箇所の除草が出来なくなり河川管理上支障を来すこととなる。</p> <p>■河川協力団体等による除草委託などの検討も行う。</p>
<p>■区域の全体的な管理</p>	<p>■区域指定について、全体的に管理をどこかの組織に依頼するようになるのか。</p> <p>■申請して許可する作業には、その団体の職員が対応することになり、そのための経費がかかるのではないかと。そうすると、稼げる団体でないと思えないのか。</p>	<p>■今後、盛岡市を中心とした利用調整会議(仮称)のなかで、決めていく。</p>
<p>■区域指定した後の事業内容</p>	<p>■キャンプや舟運などが実験されているから、今やっていることを深めていけば、盛岡地区かわまちづくりブランディングされていくのではないかと。</p>	<p>■これまでの社会実験で実施してきた活動をもとに事業内容を組み立てていくことが望ましい。</p>

①かわまち勉強会のグループ統合について

■現在、北上川と中津川の2Gに分かれて開催されている勉強会を、従前の一つの形に戻し、前年度の報告を行うなどの情報共有の場とする。

<補足>

- ◆情報共有された内容が、その年の行事や活動に役立つことが出来るよう、勉強会の開催は年度明けの早い時期に行うことが望ましい。
- ◆メンバー構成については、同じ所属団体は最大2名までとする。

②河川空間の活性化やにぎわいの創出について【中津川】

- 中津川の活性化のためには、人が近づきやすい、こまめな河川敷の除草が必須。
- 頻度が高い除草を継続して実施するためには、市民団体の自主的な活動や国の除草だけでなく、河川空間をオープン化することで地域の商業者も巻き込むやり方も必要である。
- 河川協力団体等による除草委託などの検討も行う。

③河川空間の活性化やにぎわいの創出について【北上川】

- 北上川の河川空間のオープン化に賛同する意見が多い。
- 区域指定の範囲は、木伏緑地と連携して賑わいを創出する「旭橋～開運橋」の河川敷を含め、舟運運用の観点も考慮して「夕顔瀬橋～明治橋」が考えられる。
(資料4にて説明)